

新約聖書の中の祈り 第6回

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「イエスの祈り」のアウトライン・・・福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り
13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り
14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間での ペテロのための祈りへの言及
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り

17. 大祭司としての祈り

- 18. ゲッセマネにおける祈り
- 19. 差し控えられた祈りについての言及
- 20. 十字架からの祈り
- 21. エマオにおける祈り
- 22. 昇天を前にしての祈り

□「イエスの祈り」の22の事例から見る24のポイント

- 1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
- 2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
- 3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さまざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
- 4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の直前に祈られている。
- 5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
- 6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
- 7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
- 8. イエスは、死の直前にも祈った。
- 9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
- 10. イエスの祈りの時間は、長短さまざまであった。夜通しや、1時間など。
- 11. イエスは、父なる神に対して祈った。誰に祈るのか、父なる神である。
- 12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
- 13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
- 14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
- 15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
- 16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
- 17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。
- 18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、私たち自身と他の人々の霊的に益となることを含んでいた。
- 19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
- 20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。
- 21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
- 22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ 26 : 36~46）
- 23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
- 24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返す言うことがあった。

□本日の内容・・・22の事例の中から、17番「大祭司としての祈り」の後半

17. 大祭司としての祈り

(1) 【補足】メシアの役割は、預言者・大祭司・王

- ① イエスはイスラエルの王として民の前に登場したが、イスラエルの指導者たちはイエスのメシア性を否定した。3年半の公生涯におけるイエスの働きは、「預言者」としての働きであった（マタイ 13 : 57、ルカ 13 : 33）
- ② 最後の過越の食事を終えて、イエスの役割は「大祭司」へと移行した。
 - 十字架の上で流した血は、私たちの贖いのためであったが、同時に天の幕屋を清めるための血でもあった。復活後、イエスの最初の使命は、天にのぼり、天の幕屋を清めることであった（ヨハネ 20 : 17、ヘブル 9 : 11～12、23～24）
 - 再び地上に戻り、復活から 40 日間、弟子たちに現れて、ご自身の復活を明らかにされた（使徒 1 : 3）。そして、イエスはオリーブ山から天に昇られた（使徒 1 : 9～12）。天では、大祭司として、信者たちのためにとりなしてくださる（ヘブル 2 : 17～3 : 1、4 : 15～5 : 10）。
 - 今、現在のイエスの役割は、「私たちの大祭司」（ヘブル 4 : 15）である。
- ③ 大患難期の末期、イスラエルの民族的救いの後、地上に再臨する。イエスは、イスラエルと異邦人のすべてを支配する「王」として、世界を支配する（ヘブル 12 : 28、11 : 16、13 : 14、Ⅱテサ 1 : 5～10、黙示録 1 : 6、5 : 9～10、19 : 11～16、20 : 6）

(2) ヨハネ 17 : 1～26 これは、大祭司としての役割を開始したことを示す祈り

(3) イエスの祈り、22 の事例の中で、最も長い祈り

(4) とてもよく構成された祈り、大きく分けると 3 つの区分

A) イエス自身のための祈り（1～8 節）

B) 特に 11 人の使徒たちのための祈り（9～19 節）

C) すべての信者たちのための祈り（20～26 節）

B) 特に 11 人の使徒たちのための祈り（9～19 節）

1. 9 節 「わたしは彼らのためにお願いします」・・・「彼ら」とは 11 人の使徒たち、イエスは 10 節から 19 節において、彼らのために 3 つのことを祈った
 - (1) 彼らが保たれますように（10～14 節）
 - (2) 彼らが守られますように（15～16 節）
 - (3) 彼らが聖別されますように【この世から取り分けられますように】（17～19 節）
2. 一つ目の願い求め（10～14 節）
 - (1) 願い求めの内容

- ① 11 節 「あなたの御名の中に、彼らを保ってください」・・・一つ目の願い求めは、11 人の使徒たちが保たれますように、ということ
 - ② 「保つ」と訳されている原語は、保護するために見守ることを意味する。
 - ③ 「あなたの御名の中に」・・・「あなたがわたしに下さっている」とある。父なる神の御名であるが、それがイエスにも与えられている。父なる神とイエスが一つであることを示す。
 - ④ 【補足】その名が何なのか、ここでは明らかにされていないが、旧約の預言者イザヤは次のように、メシア預言を語っていた。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」(イザヤ 9 : 6~7) また、黙 19 : 11~16 には、再臨のイエスが持つ名が、次のように記されている。「忠実また真実」(11 節)、「ご自身のほかだれも知らない名」(12 節)、「神のことば」(13 節)、「王の王、主の主」(16 節)。
- (2) この願い求めをする理由 5 つ
- ① 9~10 節 使徒たちは、父なる神のものであり、父なる神がイエスに与えたものである。そしてイエスは、彼らによって栄光を受けた。
 - ② 11 節 イエスは、もうすぐこの世を去るが、彼らはこの世に残る。だから、彼らには保護的な見守りが必要である。その見守りの目的は、彼らが一つとなるためである。それは、父なる神とイエスが一つであるのと同様に、彼らも一つとなるためである。
 - ③ 12 節 イエスは、この世にいる間は、使徒たちを、御名の中に保ち、守った。滅びの子=イスカリオテのユダだけは、その保護から取り除かれたが、「聖書が成就されるため」・・・そのことはあらかじめ神はご存じであった。旧約預言で預言されていた。
- 【補足】ユダから保護が取り除かれた理由
 - 第一に、ユダは信者ではなかったこと (ヨハネ 6 : 64、70)
 - 第二に、ユダが回帰不能点を越えたこと。イエスは、他の使徒たちにわからないようにユダに対して、何度も裏切りをしないように警告した。しかし、ユダはついに金銭目的で裏切りに走ってしまい、聖書預言を成就してしまった。ユダには、何度も思いとどまり、引き返すチャンスが与えられた。
 - 回帰不能点を越えると、神の守りはもはや与えられない。これは、信者にも不信者にも適用される原則である。ただし、信者の場合、

回帰不能点を越えて神のさばきを受けるとき、それは物理的・肉体的なさばきを受けるのであって、霊的な救いを失うことではない（Ⅰコリ 5：4～5）。

- ④ 13 節 イエスは、もうすぐこの世を去る。今、その残されたわずかな時間であるが、そのときを彼らのための願い求め、祈りにあてている。自分が去っても、彼らが「わたしの喜び」、イエスにある喜びによって満たされるためである。
- ⑤ 14 節 使徒たちは、この世から憎まれるであろう。なぜなら彼らは、この世にいないけれど、もはやこの世のものではないからである。
- (3) 【補足】この祈りの中には、使徒たちに、神のことばが託されたことを示す箇所がある（8 節「あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えた」、14 節「わたしは彼らにあなたのみことばを与えました」）。
 - ① 使徒たちには真理を語る権威が与えられ、神の啓示を誤りなく完全に伝える役割が与えられた。その結果が、新約聖書である。
 - ② 使徒たちの教えは、「聖徒たちにひとたび伝えられた」（ユダ 3 節）。この「ひとたび」という原語は、単に「一度」でなく、「一度で完全に」の意味であり、使徒たちを通しての神の啓示は完成していることを示す。新約聖書は完成している。これに何かを付け加えるような新しい教えは存在しない（黙 22：18～19）。
 - ③ 「使徒」とは、弟子集団の単なるリーダー格というようなものではない。聖霊降臨（使徒の働き 2 章）以降、聖霊の賜物のひとつである「使徒の賜物」が彼らには与えられ、その賜物によって使徒としての働きをした。
 - ④ 使徒となる条件は、「イエスの復活の証人」（使徒 2：22）であること。よって、11 人の使徒の中には当初含まれていなかった、主の兄弟ヤコブやパウロも、復活のイエスに会ったために、使徒となることができた（Ⅰコリ 15：7～8）。
 - ⑤ 新約聖書の完成により、新たな預言は必要なくなり、預言者の働きは終わった。また、使徒たちの働きも、使徒ヨハネによる黙示録を最後にして、終了した。その結果、使徒と預言者は不動の土台となって、その上に教会は建て上げられる（エペソ 2：20）。
 - ⑥ 現代の教会において、自分を使徒や預言者であると自称する人がいるとしたら、その人には④や⑤の理解が欠けているのであって、聖書的な意味での真の使徒や預言者ではない。
- 3. 二つ目の願い求め（15～16 節）
 - (1) 願い求めの内容・・・15 節 「彼らを、悪い者から守ってくださるようお願いします」 「悪い者」とは、サタンである。
 - (2) この願い求めをする理由・・・15～16 節 彼らは、この世に残る。しかし、彼ら

をこの世から取り去ってくださいとは祈らない。イエスがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではない。よって、彼らがこの世にある限り、父が彼らを悪い者から守ってくださる必要がある。

4. 三つ目の願い求め（17～19節）

(1) 願い求めの内容・・・17節 「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのことばは真理です」

- ① 「聖め別つ（きよめわかつ）」と訳されている原語の基本的な意味は、「別に取り分けること」である。
- ② イエスは、使徒たちが神のものとしてこの世から別に取り分けられ、聖なる目的のために用いられるようにと、祈っている。
- ③ 使徒たちをこの世から別に取り分けるための手段は「真理」、すなわち「神のことば」である。

(2) この願い求めをする理由

- ① 18節 イエスが父なる神によって世に遣わされたように、使徒たちはイエスによって世に遣わされる。彼らはそのためにふさわしく備えられる必要がある。
- ② 19節前半 「わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます」 ここで、イエスは、「自分自身を聖め別つこと」について語る。イエスは自分自身を聖別する。つまり、イエスは父なる神によってこの世とは別に取り分けられただけではなく、自分自身でも自分を聖別する、というのである。そして、それは自分のためではなく、「彼らのため」、11人の使徒たちのためである。
- ③ 19節後半 「彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです」 イエスと同様、使徒たちも、自分自身を聖別する必要がある。使徒たちが神のことばによって自分自身をこの世とは別に取り分けられるようにすること、これが使徒という特別な役目を果たすうえで必要だからである。

(3) 【補足】イエスと使徒たちが自分自身を聖別することについて

- ① イエスが自分自身を聖別する、すなわち自分自身をこの世から取り分けるとき、イエスはどこにいるのか？ 参考 ヨハネ 15：10
- ② 11人の使徒たちは、父なる神によってこの世から別に取り分けられ、そして同時に神のことばによって自分自身をこの世から取り分ける。では、彼らはどこにいるのか？ 参考 ヨハネ 15：3～4、9～10
- ③ 使徒たちがこの世から取り分けられると、彼らはどのようなことができるのか？ 参考 ヨハネ 15：7～8